

ひとつ風呂浴びて古典落語を満喫

～ 湯あがり寄席 ～



聴衆を引き込む、絶妙な間合いと語り口

温泉保養センターはまなすで1月31日、夢いきいき21マイタウン事業を活用した東日本大震災復興応援チャリティ湯あがり寄席（NPO法人エヌポック主催）が行われ、会場に詰め掛けた聴衆約130人が、浅野梅若会の民謡と春風亭華柳師匠の古典落語を楽しみました。

全国大会などで活躍する浅野梅若会の唄い手らは、秋田草刈唄など8曲を披露。春風亭華柳師匠は人情話「井戸の茶碗」を感情豊かに語り、聴衆を引き込みました。また、華柳師匠は市内3中学校でも出前寄席を行い、江戸文化に触れる貴重な体験を提供してくれました。

伝統の奇祭ここにあり

～ 掛魚まつり ～

2月4日、金浦山神社を主会場に「掛魚まつり」が行われ、漁業関係者や地域住民が荒縄に吊るした大きな鰯を担いで町内を巡行。海上安全や豊漁を願い、今年は42本もの鰯が金浦山神社に奉納されました。

掛魚まつりは300年以上の歴史を持つ伝統行事とあって、その独特の様子を一目見ようと神社境内には多くの参拝客やカメラマンが詰めかけました。また、勢至公園では鰯汁の販売が行われ、匂いの味覚を味わおうと多くの来場者が行列を作り、厳しい寒さの中、出来立ての鰯汁を笑顔で頬張る姿が見られました。



大きな鰯をよっこらしょ！

象潟の島々を守った活動家

～ 覚林和尚を顕彰する会 ～



名勝九十九島の景観を後世に残すためには

1月27日、蚶満寺で「覚林和尚を顕彰する会」が開催され、市民ら約70人が参加しました。覚林和尚とは、江戸時代の蚶満寺住職で、九十九島の景観を守るために尽力した人物で、その功績を語り継ぐことを目的に、この会が行われました。

法要では、蚶満寺住職・熊谷和尚の読経および覚林の逸話が語られました。その後、顕彰会メンバーによる覚林和尚の活動をまとめた紙芝居が披露されると、聴衆はうなずきながら耳を傾け、九十九島の尊さを改めて実感していました。

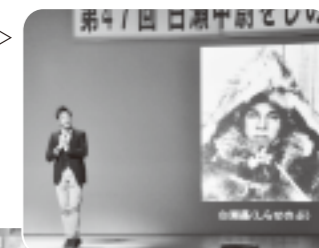
南極「大和雪原」到達の偉業を想う

～ 第47回白瀬中尉をしのぶ集い ～

1月28日、第47回白瀬中尉をしのぶ集いが行われました。雪中行進では、初参加した象潟小5年生と大洗町議会議員など約500人が、南極公園から金浦勤労青少年ホームまでの2.5kmを行進し、途中、白瀬中尉の生家浄蓮寺の墓前に全員で黙とうを捧げました。

また、秋田市出身の冒険家阿部雅龍氏による講演「白瀬の夢を追って」が仁賀保勤労青少年ホームで開かれ、仁賀保地域の小中学生など約400人が参加しました。阿部氏は、映像や写真でこれまでの冒険を紹介。現在の目標である、単独歩行での南極点到達などを語りました。

「夢を追う男」阿部雅龍氏



雨にも負けず、風にも負けず

◆U-11の部
【準優勝】ニカホA
◆U-12の部
【第3位】金浦

第26回由利本荘市・にかほ市ジュニアフットサル大会



◆2年生の部
【優勝】仁賀保中B

平成25年度本荘由利中学校フットサル大会



いちじくメニューも紹介されました



活動実績報告に聞き入る参加者

1・2・9は「いちじくの日」！

～ にかほ市「大竹いちじく」の日まつり ～

大竹地区のふくじゅ館で1月29日、生産者と秋田しんせい農協、県、市により昨年の2月に結成されたいちじく振興チーム「プロジェクト九」による大竹いちじくの日まつりが開催され、関係者約70人が出席しました。

この1年間の生食用いちじく栽培への取り組みや、首都圏でのマーケティング活動などを生産者が発表。また、ブランド化に向けた体制づくりなどが話し合われました。東京でフランス料理店を営む萩野伸也氏は講演で「完熟前に収穫される大竹産いちじくは、日本の西洋料理界にとって無限の可能性があると期待を寄せました。